

論文

ゼッキノー・ドーロ (32回を終了して)

前川磁子

1. 32回を振り返って
 2. 大会日数の変更
 3. アジア諸国の歌
 4. 歌の分類
 5. 自然環境保護を取り上げた歌
 6. プレミオ・モーツアルト
 7. 日本との交流
- 結び

1. 32回を振り返って

子供たちに、新しい感覚のすぐれた歌を与えたいという願いから、1959年ミラノでゼッキノー・ドーロという催しがうまれた。子供の歌の新曲のコンテストで、年1回ずつ開催されることになった。第1回、第2回はミラノで、第3回からは、ボローニアのアントニアーノが主催者となって行われる事になった。爾来、それは、年に1度、休みもなく続けられて、昨年秋に第32回を終了した。その間、新鮮な感覚に溢れた優れた子供の歌を数多く生み出し、それを、イタリア全土は言うに及ばず、全ヨーロッパ、アジア、アメリカに至る広い地域の子供たちの間に普及させることに成功したのである。

ゼッキノー・ドーロ (Zecchino d'Oro) とは、かつて地中海に覇を唱えたヴェネツィア共和国の通貨であったが、この催して優勝した曲の作曲家に、金貨を象ったメダルが贈られることからこの愛称がうまれた。さらに、その愛称は子供達に愛読されたピノッキオの物語から思いつかれたという。

1959年9月、ミラノで第1回目のゼッキノー・ドーロが開催された。その後、第3回目主催者がアントニアーノとなり、開催地がボローニアに移ってから、コンテストの形式も整い、催しの規模も大きくなって、コンテストというより、子供たちのための楽しい歌祭りとして人気を集めるようになった。コンテストの方法のユニークな点は次の通りである。

- (1) 審査の各段階で子供を審査員に加える。彼等の投ずる一票は、大人の審査員と同じ重さをもっている。
- (2) 最終審査は、イタリア在住の子供たち（外国人も含めて）の中から選ばれた歌い手の演奏によって行われ、別に選ばれた子供の審査員達の投票により決定する。審査員の子供たちはパレット (Paletta) というシャベル型の板に6-10の番号を書いたもので、点を表示する。
なお、コンテストは3日にわたって行われ、第1日6曲、第2日6曲が演奏され審査員の投票によって順位が決定する。第3日は、決勝の大会で、前日までの上位の曲同士再び順位を競って、最高得点を得た曲の作曲者に、金貨をかたどったメダル「ゼッキノー・ドーロ」が贈られる。第6回大会から最も優れた歌詞の作者にも賞が贈られることになった。
- (3) 国籍、職業、年齢を問わず、すべての人々に応募の権利がある。
- (4) ポピュラー音楽の世界で活躍中の芸術家に協力を求め、子供のための作品を依頼する。ポピュラー音楽や流行歌の斬新なリズム感、既成の観念にとらわれない、自由な発想に期待している。
- (5) 優勝者に、賞金を贈らない。

以上の点がとくに注目される。

第18回からは、ユニセフの後援のもとに、世界各国からも歌を募集する事

になった。イタリア曲 6，外国曲 6 で順位を競い，イタリア曲の第 1 位にはゼッキーノ・ダルジェント (Zecchino d'Argento 銀賞) 外国曲の第 1 位にもゼッキーノ・ダルジェントが贈られる。最終日には，全 12 曲中で最高点を得たものにゼッキーノ・ドーロ (Zecchino d'Oro 金賞) が贈られる。

今回は，第 27 回から第 32 回の記録である。国際化に成功して，社会的な評価も高まり，安定した時期になったといえるであろう。大会の日数が第 30 回から 1 日増えて 4 日になった事，アントニアーノの会場が新しくなったことなど，内容が一層充実した。雑誌やテレビ局からの賞の数も増えた。催しそのものが順調な歩みを続けていることの証拠であろう。感心するのは，出発当時のひたむきな姿勢と，みずみずしい感覚を保ち続けていることで，マリエレ女史をはじめとする関係者の，人柄の反映と考えてよいであろう。

2. 大回日数の変更⁽¹⁾

第 30 回では，3 日目に全 12 曲をもう一度演奏し，会場から選ばれた 16 名の子供達に投票させた。前日迄の得点にそれを加えたものが，それぞれの曲の持ち点となる。その上で，上位 7 曲が 4 日目の決勝の大会に残り，4 日目にゼッキーノ・ドーロがきまった。3 日間はイタリア国内に，第 4 日目はヨーロッパ全土にテレビ中継された。4 日目には，ユニセフ特使としてピーターユスチノフ (Petre Ustinov) が出演した。このようなすばらしいゲストの登場も，ゼッキーノ・ドーロの魅力のひとつである。

3. アジア諸国の歌⁽¹⁾⁽⁴⁾⁽⁵⁾

第 19 回から第 23 回頃までは，アフリカ諸国の歌が登場して，強烈なリズムや異国情緒ゆたかな響きに驚かされたが，その後は，アジアの国々の優しい歌が登場した。

アリラン ARIRANG (Arirang) 韓国 第 26 回 ゼッキーノ・ダルジェント

タンブリンの愛 AMOR DI TAMBURELLO (Trống côm) ヴェトナム

第29回 ゼッキノー・ドーロ

こいのぼり L'AQUILONE DEI SONGI 日本 第30回入賞曲⁽⁵⁾¹²⁾等がある

「こいのぼり」は、日本の子供がみんな知っている可愛い歌であるが、単純素朴な子供の歌が、「夢の凧」という、ロマンティックで都会的な雰囲気を持った歌に変わっている。

夢の凧⁽⁵⁾¹²⁾

軽い凧はのびのびと自由に舞い上る
私の願いをのせて いきいきと
限りない夢の世界を彩り
青空に気高い詞（ことば）をちりばめる

広い空いっぱいに見事な虹がかかり
空は澄み 幸福が広がる
優しい調べがきこえる
君は知っているね
この素晴らしい歌が決して消えることはない

凧は高くたかく舞い上がっていく
希望のそよ風に乗って
凧は美しく楽しい夢を見つけ
静かな夜にはいつも、私のところへ
夢を届けてくれるだろう

夢の凧が空へ舞い上がるとき
君は美しい夢をみるだろう

そして、この歌をきながら
眠るのだろう

「アリラン」については既にのべたが、イタリア語の訳詞が美しい。現在の韓国の国情を反映するように、希望に満ちた明るい歌詞がつけられている。

「タンプリンの愛」は、3曲の中でも一番美しいと思う。歌の優しい雰囲気を包み込むような幻想的な響きは、編曲の妙かもしれない。ヨーロッパの歌とは違った旋律線の動きを支える伴奏部分の美しさはとても印象的である。

アリランの場合は、「アリラン」という言葉が覚えやすいこともあるが、あの沸き立つような会場の賑やかさにまけないで、どちらかといえばおとなしいアジアの歌が高い得点を与えられたのは、嬉しいことである。ヨーロッパの人々の抱く「東洋」のイメージによくあっていたのではないだろうか。

4. 歌の分類

この時期の歌を歌詞の内容からみると、幾つかの特色が認められる。

a. コンピューターやコマーシャル等、現代の子供達が興味を持つ題材

ビット BIT 第28回 ゼッキーノ・ダルジェント⁽³⁾⁽¹⁰⁾

コマーシャル, コマーシャル PUBBLI, PUBBLI, PUBBLICITÀ⁽⁴⁾⁽¹¹⁾
第29回 ゼッキーノ・ダルジェント

b. 自然環境保護の気持ちをこめたもの

木はおともだち L'AMICO ALBERO 第28回 入賞曲⁽³⁾⁽¹⁰⁾

ネプチューンはお掃除屋さん NETTUNO NETTURBINO
第31回入賞曲⁽⁶⁾⁽¹³⁾

「ネプチューンはお掃除屋さん」では海洋汚染の問題を取り上げている。

c. 子供のありのままの姿や本音を表しているもの

眠たくない子の子守り歌 NINNA NANNA PER NON DORMIRE ⁽²⁾⁽⁹⁾

第27回 入賞曲

アイスクリーム屋さん IL GELATAIO (El Heladero) ヴェネズエラ

第30回 入賞曲 ⁽⁵⁾⁽¹²⁾

パパ 怖いよ HO PAURA PAPA! 第32回 最優秀歌詞賞 ⁽⁷⁾⁽¹⁴⁾

「眠たくない子の子守り歌」では、子守り歌など歌ってもらえない子供達が、枕投げなどで大騒ぎする様子を歌って、優しい子守り歌とは違ったひとひねりした内容である

「アイスクリーム屋さん」は、アイスクリーム屋さんを待ちかねている子供の歌で、貯金箱がからっぽだと明日まで大好きなアイスクリームはお預けということになる。

「パパ 怖いよ」はテレビで怖いお話しを見て眠れなくなった子供の歌。

音楽面からみると、軽快なポップス調の曲が多い。テンポはますます速くなり、伴奏部分も複雑になって、大人の歌に近付いたようである。現代っ子の嗜好がそのまま表れているのであろう。その中で印象に残ったものは

a. ラテン系のリズムに乗ったもの

速すぎるよ トビア CORRI TROPPO, TOBIA セイシェル

第30回入賞曲 ⁽⁵⁾⁽¹²⁾

お願い、静かにして II BAMBINO CHE VALE UN PERÙ ペルー ⁽⁷⁾

第32回入賞曲

b. ジャズによるもの

アルファベットのA “A” COME “ALFABETO” (C is for cookie)

セサミ ストリートの歌 アメリカ 第30回 入賞曲 ⁽⁵⁾⁽¹²⁾

30年代風の楽しい雰囲気を持っている。ディズニーの映画「おしゃれキヤット」に登場する野良猫バンドを思い起こさせる。

c. クラシック感覚

言葉遊びのマズルカ LA MAZURKA DELLA MELA ANNURCA

(Czerwone jabluszko) ポーランド 第27回 入賞曲

アムステルダム AMSTERDAM オランダ 第32回 入賞曲⁽⁷⁾⁽¹⁴⁾

「言葉遊びのマズルカ」の美しいピアノの前奏部は、ショパンのマズルカを想わせる。

「アムステルダム」は耳慣れたワルツであるが、ピッコロ・コーロの斉唱の素晴らしさに、曲の美しさを再認識させられた。

b. 言葉の響きの面白さを効果的に取り入れたもの

夢をみましょうよ RIPRENDIAMOCI LA FANTASIA⁽³⁾⁽¹⁰⁾

第28回 ゼッキーノ・ドーロ

今回に限ったことではないが、動物の鳴き声を多く取り入れて、歌う方も聴く方も一緒に楽しめるようにしたものは、子供達に人気がある。

5. 自然環境保護を取り上げた歌

世相を反映した歌が登場するのも、ゼッキーノ・ドーロの特色である。

「木はお友達」「ネプチューンはお掃除屋さん」の他にも、

「きれいな砂浜は」 L'ULTIMA SPIAGGIA 第27回 入賞曲

「太陽とひまわり」 IL SOLE E GIRASOLE 第28回 入賞曲

なども、美しく優しい表情で自然の大切さを歌っている。今回は「きれいな砂浜は」と「ネプチューンはお掃除屋さん」をとり上げた。

「きれいな砂浜は」の歌詞の大意は、次のようなものである。

美しい砂浜へ遊びに行くのは、みんなの楽しみである。砂粒はキラキラと

金色に輝き、海はコバルト色。しかし、きれいな砂浜が直面しているのは、車の行列、人々の怒り、喧騒なのだ。

きれいな砂浜の水辺には看板が立っていた。そこには、とても大切な言葉が書いてあった。「このすばらしい砂浜をきれいにしましょう。海辺のピクニックの後、休めるように」

人々は砂浜で遊び、泳ぎ、食事を楽しんだ。でも、誰もその看板の言葉を読まなかった。人々の立ち去った後には、箱の山、ビンの見本市ができて、素晴らしい砂浜は、汚れてしまった。

きれいな砂浜の水辺の看板は取り払われた。そこには、とても大切な言葉が書いてあった。「このすばらしい砂浜をきれいにしましょう。海辺のピクニックの後、休めるように」

砂浜に展開される光景の描写は独唱者が歌う。へ長調4分の4拍子。

「きれいな砂浜は」に始まって看板の言葉を繰り返す部分は、8分の12拍子ピッコロ・コーロが受け持っている。このコーラスの歌唱力の素晴らしさにも助けられて、優しく美しい旋律がとても印象的である。歌詞の内容からみても、声を大にして理想論をとこなえるよりも、優しく、しかし、辛抱強く訴える方が、説得力を持っているような気がする。

「ネプチューンはお掃除屋さん」は、正統的なアルゼンチン・タンゴのリズムに乗って、海洋汚染になやむ海神ネプチューンの姿を歌っている。歌詞の内容は次のようなものである。

ネプチューンは海の底で怒っていた。海水がよごれ、彼の王国は暗くなっていくのに何の方策も思い付かない。たまりかねて彼は海面に上って行く。彼が波の上に顔をだすと、一つの声が彼に応えた。「昔、海は輝きと喜びに満ちていた。今の海はゴミで一杯。色とりどりの魚達も、サンゴも、みんななくなってしまった。君が1日に何トンも飲んでいる洗剤は、本当のレモネードじゃない。君もその事はよく知っているだろう。」

プラスチックに重油、とどまることをしらない大破壊にネプチューンは眠れない。ボンベや缶類の投げ捨てで頭に瘤を作ってしまった。

ある朝、サンゴの椅子に腰掛けて鏡をのぞいたネプチューンはがっくり、顔は蒼ざめて病人のよう。彼は顔をしかめ波の上に顔をだすと、一つの声が本当は健康なのだと彼を上げます。結局、きれいな海がよみがえるためには海の神様といえども手を拱いてはいられない。マスクをかけて箒を持って、お掃除に励みなさい。という内容である。

ユーモラスな語り口ながら、なかなか深刻な内容の歌詞である。海神ネプチューンの部分はピッコロ・コーロが受け持ち、彼に答える神の声は独唱者が歌う。

ゼッキーノ・ドーロには、すぐれたタンゴが数多く登場している。日本で大ヒットした「黒猫のタンゴ」(VOLEVO UN GATTO NERO)をはじめ、「スカートをはいたお巡りさん」(IL VIGILE IN GONNELLA)「タンゴのマジシャン」(TANGO, MAGO TANGO)など、印象に残る曲が多いが、「ネプチューン・・・」はバンドネオンの響きに導かれた、素朴な美しいタンゴである。歌詞の内容の明暗につれて、長調から短調へ、そしてまた長調へと、素朴ながら効果的な手法で、曲の表情が変化していく。アルゼンチン・タンゴの持つ、底深くひそんだ力強さと、どこか物悲しい雰囲気が、ネプチューンの置かれた状況にふさわしく、大人のムードを持った子供の歌になっている。

ゼッキーノ・ドーロにはいつも世相を反映した歌が登場してくるが、自然保護にしても動物愛護にしても、決して理想論をふりかざすことはない。現実の厳しさをしっかりと見据えながらも、決してくじけることなく、辛抱強く自らの主張を繰り返して行く。ヨーロッパ人の生活の知恵であろうか。このテーマのように生硬になりがちな題材を、言葉と音楽とのリズムにのせてきれいな歌にするのは、日本の歌の場合には非常に難しいと思う。また日本語で、直訳の歌詞をつけることも不可能であろう。まさに言語の性格の相違を感じさせられる。そして、このことが、外国曲を受け入れた場合、歌える言葉への翻訳の難しさにそのまゝ、繁がってくるのである。

6. プレミオ・モーツアルト

ここで「プレミオ・モーツアルト」(PREMIO MOZART)という催しに触れておきたい。これはクラシック音楽を学ぶ子供達のコンクールで、1988年からヴェローナ市とアントニアーノの共催で始められた。将来、演奏家を志す子供を対象として、奨学金を与えるなど、ゼッキーノ・ドーロとは性格の違うものである。しかし、大会の雰囲気はゼッキーノ・ドーロと似ていて、きびしいコンクールが、楽しいお祭りになっている。クラシック音楽を学ぶ子供達はいつも非常に孤独な状態に置かれているので、このような機会に、志を同じくする仲間との触れ合いのなかで、人間らしい暖かさを感じることが出来るのは本当に喜ばしいこと、思う。ゼッキーノ・ドーロとともに、これからの歩みが楽しみな催しである。日本からも、1989年第2回大会には松本あすか(8才)が第3位に入賞し、第3回には呉山薫(9才)が入賞した。決勝大会の様子は全ヨーロッパとアメリカにテレビ中継された¹⁷⁾。

7. 日本との交流

第2回のプレミオ・モーツアルトで3位に入賞した日本人の女の子、松本あすかは、第32回のゼッキーノ・ドーロ大会に招待されピアノの演奏をした第30回に「こいのぼり」を歌った川端まり子は、新潟県上越市の幼稚園児でアントニアーノから赴任されているタルチジオ神父の推薦で、独唱者に選ばれた。このようなことから、日本との交流が次第に親密になっていくのではないかと楽しみである。¹⁷⁾

日本でも、1961年からNHKがラジオとテレビを通じて「みんなのうた」を放映している。可愛いアニメーションと共に子供達に喜ばれてはいるが、そこから生れた歌は、もうひとつ子供達の間に着定していないように思う。ゼッキーノ・ドーロの歌もとりにいれているのであるから、ゼッキーノ・ドーロとの直接の交流が生れれば、「みんなのうた」の番組に新しい方向を示す

ことが出来るかも知れない。両者の交流が実現してほしいと心から願うものである。

結 び

ゼッキノー・ドーロは、32年にわたって400曲近い子供の歌を世に送り出してきた。しかも、ラジオ・テレビを通じて、広い範囲の子供達とその家庭に、直接歌を送った点は、特筆すべきものであろう。それ等の歌は、子供達の口から口へ伝えられ、子供達が成人した後にはそのまた子供達が、というように、絶える事なく続いていく。さらに、音と映像の記録も保存されて、20世紀後半の子供の歌の資料としても、時代の記録としても、貴重なものとなって残っていくのである。

多くの子供達、大人達に「歌」というものゝ楽しさを教え、教育者達には「歌」が、音楽教育ために最も素朴で、最も効果的な部門であることを悟らせた功績は大きい。

今、懸念されることゝいえば、良い歌を集め続けることが出来るかという点であろう。ゼッキノー・ドーロの催しが広く知られ、国の内外での評価も定まった今からが、内容を充実させるためのいっそう困難な道程の始まりといえよう。プロとアマチュアの区別も国籍も問わず、広く一般から歌を募集する方針を取っているが、イタリアに限らず総ての国でいわれているように実際はアマチュアの作品にすぐれたものを見付ける確率はあまり高くない。やはり、ポピュラー音楽の世界から、より広く、より多くの人々の協力をもとめることが必要であろう。その場合に、プレミオ・モーツアルトのように賞金または奨学金の制度を取り入れることも、ある程度までは止むを得ないのではないだろうか。出発当時の趣旨から外れる事になるので、抵抗は感ぜられるが。

以上、ゼッキノー・ドーロの32年の歩みを辿ってみた。さらに研究を進めるためには、何よりも、ポピュラー音楽についての広い知識が必要である。

時代と共に絶えず変化し続ける音楽の様々なタイプに接するだけでも、気の遠くなる様な事であるが、私の能力の及ぶ限り努力して、進んで行きたいと思う。

最後に、御指導、御協力いただいた次の方々に心から御礼を申し上げたい。

アントニアーノ

々

高田カトリック教会

ベラルド・ロッシ神父

マリエレ・ヴェントレ氏

タルチジオ・M. カンドウチ神父

参考文献

- | | | | |
|-----|----------------------|------------------------|------|
| (1) | Antoniano di Bologna | Private Communications | |
| (2) | 〃 | 27° Zecchino d'Oro | 1984 |
| (3) | 〃 | 28° Zecchino d'Oro | 1985 |
| (4) | 〃 | 29° Zecchino d'Oro | 1986 |
| (5) | 〃 | 30° Zecchino d'Oro | 1987 |
| (6) | 〃 | 31° Zecchino d'Oro | 1988 |
| (7) | 〃 | 32° Zecchino d'Oro | 1989 |

EDIZIONI CURCI—MILANO

- | | | | |
|------|----------------------|--------------------|---------|
| (8) | Antoniano di Bologna | 26° Zecchino d'Oro | (disco) |
| (9) | 〃 | 27° Zecchino d'Oro | 〃 |
| (10) | 〃 | 28° Zecchino d'Oro | 〃 |
| (11) | 〃 | 29° Zecchino d'Oro | 〃 |
| (12) | 〃 | 30° Zecchino d'Oro | 〃 |
| (13) | 〃 | 31° Zecchino d'Oro | 〃 |
| (14) | 〃 | 32° Zecchino d'Oro | 〃 |

FONITCETRA

- | | | | |
|------|----------------|--------------------------|--|
| (15) | N H K サービスセンター | N H K みんなのうた (レコード) 1976 | |
| | | ポリドールレコード JK3081—3090 | |

- | | | | |
|------|-----------------|---------------------------------|--|
| (16) | Berardo Rossi : | Storia dello Zecchino d'Oro | |
| | | EDIZIONE ANTONIANO BOLOGNA 1982 | |

- | | | | |
|------|--------|-------------------------|------|
| (17) | | SPETTACOLI 21, 11, 1989 | |
| (18) | 前川滋子 : | 白鷗論集 第6巻第2号 | 1981 |
| | | 〃 第7巻第1号 | 1981 |
| | | 〃 第8巻第2号 | 1983 |
| | | 〃 第10巻第2号 | 1984 |
| | | 白鷗女子短期大学 | |